



お母さんが家庭でつくるようなできる限りシンプルで、安心かつ安全な食品をつくりたいという強い思いから、冷凍食品の開発・生産・販売を行っている。

「9時00分00秒。1秒前でもなく1秒後でもない、その正確な時間に毎日朝礼が始まる。「おはようございませう！」と工場内に挨拶をする従業員の声が響き渡る会社があります。それが、神奈川県大和市で農・畜・水産物を利用した冷凍食品の開



21 Unique Companies in Sagami-hara and Tama

# FILE 05

【株式会社ニッコー】

## CSRを果たすことの大切さを教えてくれる会社

人々を活気づけて、成長させて、そして感動を与えて気持ちよくさせる経営理念、社是、社訓

取材・文=五島康人

D A T A

会社名：株式会社ニッコー  
 代表者：山崎 貞雄  
 所在地：神奈川県大和市代官 1-10-3  
 TEL：046-269-0217  
 URL：http://www.nikkofood.co.jp

発・生産・販売を行う『株式会社ニッコー』です。  
 創業以来、ニッコーでは冒頭の朝礼を含めたさまざまな取り組みのなかで、CSRを果たしてきました。その背景には、創業者である山崎貞雄会長の思いがあります。山崎会長が子どもの頃は、水はともキレイで自然が豊かであり、素材をそのまま食べていました。それは、社会が、人がお世話になってきたらされたため、「その経験を現在の消費者にも還元しなくてはならない！」という思いからCSRへの関心を高めていきました。  
 CSRとは何でしょうか？一般的には、企業の社会的責任を指しますが、その定義は文献やインターネットを通じてさまざまな見解がみられます。  
 ここでは、そうしたなかから「職場環境の改善や地域活動を通じた社会貢献、雇用の創出、消費者への安全・安心・信頼のある対応などへの自発的な行動である」をCSRの重要な点として取り上げました。  
 ニッコーでは、そのようなCSRを以下のように経営理念、社是、社訓にすべて織り込んでいます。

ニッコーという社名は、経営理念である「日に興す」の日（ニチ）・興（コウ）から命名したもので、従業員とその家族やお客様、あるいは社会のために毎日コツコツとがんばっているという宣言を表しています。社是の「自分の子供に安心して食べさせられる食品を作る」とは、お母さんが家庭でつくるような、余計なものを入れない、できる限りシンプルな食品をつくりたいという創業からの想いです。それを表現するために、社訓に具体的な内容を表しています。  
 では、CSRを果たすためにどの

経営理念	日に興す／従業員と家族、お客様、社会のために
社是	自分の子供に安心して食べさせられる食品を作る
社訓	<ul style="list-style-type: none"> <li>一、今を大切に、即行、即止</li> <li>一、新鮮、安全、本物の味を提供する</li> <li>一、食品の命である、素材を大切に</li> <li>一、しっかり掃除をし、磨き上げる</li> <li>一、時を守り、場を清め、礼を尽くす</li> </ul>

ような活動を行っているのでしょうか？その活動に同行して、体験しながら、山崎会長に取材を行いました。

### 人が気持ちよくなる 地域掃除

ニッコーでは、毎月1回地域住民とともに大和駅周辺の掃除を行っています。地域掃除は、日々いたるところで行われていますが、他ではあまり見られないような取り組みがあります。  
 掃除は、次ページにある「地域清掃スケジュール」に沿って時間通

りに実施されます。

午前5時。山崎会長を含めた世話人とチームリーダーが、掃除に向けた道具や備品を準備するところから始まります。そのあと、参加者をチームに分け、メンバーへの指示や教育を行うチームリーダーを決めて行われます。ここで注目すべき点は、チーム分けが掃除分担のためだけでなく、チームリーダーによるマネジメントを徹底させるために行われることです。

チームリーダーが責任を持って、その日のメンバーへの教育を行います。それは、開催の度に初めて参加する人がいるからで、自発的に参加したメンバーが「本当に来てよかった！」と思えるような環境をつくり上げることが最も重要だからです。

また、誰もがリーダーとして自覚を持つようにチームリーダーを定期的に変え、リーダー研修を実施して、掃除に関する役割や片付け方についてマスターしてもらいます。

そのような徹底した教育によって、掃除後に行われる片付けでは、ゴミ一つにおいても廃棄するもの同士に戻すものに分別し、缶も一つひとつ丁寧に洗浄、潰してから廃棄し

開会式にて参加したメンバーに掃除の取り組み方や役割分担などが伝えられる。



- 5:00 掃除に向けた道具・備品の準備
- 5:30 駅周辺の見回りによる状況把握
- 5:40 チームリーダー以上による打ち合わせ
- 5:50 開会式
- 5:55 掃除の開始
- 6:40 掃除道具の片付け・洗い、ゴミの選別・収集、手洗い
- 6:50 閉会式
- 7:00 解散（商工会議所に掃除道具を収納）

### 地域清掃スケジュール

ています。

その徹底ぶりは、手洗いにも取り入れられています。「粗洗い」「中洗い」「仕上げ」と書かれた3つの水の入ったバケツを用意し、メンバーは石鹸で汚れを落とすあと、そのバケツの順番に手を入れて濯いでいくことで、一度も水を換えずに全員が手を洗うことができます。

また、あるメンバーはスーツ姿のまま埃まみれになりながら掃除をし、閉会式とともに急いで仕事に向かいます。それは、限られた時間のなかで、「少しでも街をキレイにしたい！地域の方に気持ちのよい朝を迎えてもらいたい！」という熱い想いからです。

なぜ、ここまでメンバーの意識を高くすることが徹底できるのでしょうか？

それは、社訓に「しっかりと掃除をし、磨き上げる」を掲げる山崎会長の掃除への想いが、メンバー全員に伝わっているからだと思えます。

「人間というのは、人の役に立つたときに一番気持ちがよく、そして感動します。そうした純粹な気持ちが根っこにあることが重要であり、それはCSRという言葉以前に人とし

ての原点だと思えます」

その他にもニッコーでは、月に1回、社内において毎日掃除できないような時間のかかる場所を掃除することに取り組んでいます。

まず、目標となる掃除のポイントを決め、掃除後に結果発表を行います。そのあと、チェックしてもらい、最後に、今後に向けて改善を行います。ニッコーでは、掃除一つにおいてもPDCAを実践しているの



(写真右) 掃除道具は、使用後に一つひとつ丁寧にキレイにし、倉庫に保管されている。(写真左) メンバーは、「粗洗い」「中洗い」「仕上げ」の3つのバケツのみで順番に手を濯ぐことで、水の節約に取り組んでいる。

## 21 Unique Companies in Sagamihara and Tama FILE 05

【株式会社ニッコー】



(写真右) スーツ姿に軍手をし、着替える時間を惜しんで必死に掃除に取り組むサラリーマンもいる。(写真左)「ひとつ拾えば、ひとつだけきれいになる」をモットーに年々参加者は増えていき、掃除の活動範囲も広がりをみせている。

です。

「重要なのは、PDCAや5Sといった活動に対して、どれだけ本気になって取り組むことができるのかです。特に、チェックは重要で、人に見られるということは最大の学びでもあります。また、人に見られることで、より徹底してキレイにしようとなります」と山崎会長は言います。

そうすることで、チェックする人にも「ここまでやるか。すごいな！」という感動を与え、それがまた掃除をする際のベースとなり、より一層キレイにしようという良い循環を社内に生み出しています。

### 人を成長させてくれる朝礼

ニッコーでは、下の「朝礼スケジュール」に示したように非常にユニークな朝礼を行っています。

その特徴的な取り組みの一つが、「ハイの練習」です。指名された従業員が一人ずつ順番に「ハイ！」と元気よく快活に発声することで、業務に向けて気持ちを締めさせていきます。

もう一つの特徴は、「掃除の結果

報告」です。従業員が自分自身で掃除した箇所を写真で取り、「これだけキレイになりました！だから見てください！」と意思表示させています。その他にも、倫理研究所が出版している『職場の教養』を復唱したり、新入社員は午前8時から始まる新人朝礼に向けて、その5分前から「朝礼の練習」を行うことを取り入れています。

こうした取り組みは、社訓にある「時を守り、場を清め、礼を尽くす」を基本に、朝礼を通じて従業員にメリハリをつけさせ、社会人として最低限のマナーを身につけさせることを目的としています。

「我々がやっているような朝礼は何も特別なことではありません。皆さんは、経済のことばかり学ぼうとしてこういった基本的なことをしっかりとやろうとしないだけです。しかし、それでは人は立派に成長していきません」と山崎会長は言います。

朝礼を導入した当初は、従業員もその重要性を理解しておらず、嫌がっていたそうです。そのため、勉強会を実施して朝礼をしっかり行うことで自らが成長していくことを伝えてきました。その結果、従業員全



入社1～2年の新入社員は、新人朝礼の開始5分前から「朝礼の練習」を毎日かさざざ行っている。

### 朝礼スケジュール

- ①経営理念・社是・社訓
- ②挨拶の練習
- ③ハイの練習
- ④倫理研究所「職場の教養」復唱
- ⑤掃除の結果報告・改善点
- ⑥業務の分担内容
- ⑦実践の決意



(写真右) 朝礼中に、機材の足回りやつなぎ目など日々汚れが付きやすいところを掃除する。(写真中央) 掃除担当の従業員は、掃除する前と後の写真を比較して取り組みをアピールする。(写真左) 従業員全員で「職場の教養」を復唱し、経営に対する倫理観の統一を図っている。

員が朝礼にて人前で話をするのも平気になり、業務に対しても以前に比べてメリハリをつけながらきちっと行うようになりました。

現在では、職場以外のあらゆる社会の場でも堂々と話せるようになり、それが朝礼を通じて社会貢献というCSRを果たしていく一番のポイントになっています。

また、山崎会長自身が何事にも率先して取り組むことで、従業員が「自分もがんばらなきゃ！」とモチベーションを高めています。

「何か新しいことを始めるにはまずトップから変わっていくかなくてはなりません。たとえ、それが非常に困難なことであっても、上に立つ者が乗り越えていくことで、従業員に一体感が生まれます。まさに『子は親の姿を見て育つ』です」

### 農業参入による素材への こだわり「良いものを 誰かがつくらなくては！」

ニッコーでは、2010年11月から農業事業部を立ち上げて、農業への参入を始めました。近年、国内において農家の高齢化による農業離

れが進んでおり、農作物の自給率も低下し続けています。そのため、国産にこだわるニッコーでは、農業をやらなくなった農家から農地を借りて、自然な状態で食べられる野菜を積極的に自社でつくり出すとしています。

そして、より信頼性のある冷凍食品を製造し、市場に「健康に良い安全安心なもの」を送り込んでいくための循環ビジネスを確立させようと考えています。

現在、綾瀬市の地権者から農地を借り、総面積は約7200平方メートルに及びます。ただし、そのほとんどは現在使用されていない荒地となった畑を再使用できるように開墾しているため、非常に労力がか



1 使用されずに荒地となつてい  
た以前の畑。



2 現在は従業員によって再び開  
墾され、整地されている。



3 将来的に、自然の状態で食べ  
られる野菜を栽培する予定。

かります。整地するにも植物の根を取り除く作業が非常に大変で、約1カ月かかるそうです。そこまですべても取り組む理由は、他の活動と同様に、「新鮮、安全、本物の味を提供する」、「食品の命である、素材を大切にする」という社訓を通じてCSRを果たすことの大切さを訴えているからです。

また、ニッコーでは、現在、廃棄物への削減として野菜の商品として使用しない部分を、「ゴミとは別に堆肥に戻すように取り組んでいます。手間ひまはかかりますが、「自ら土壌でつくった食物を土壌に戻して、またつくる」ことの実現を追求しています。

「食べ物にはその素材が持つ力強い生命力があり、それを大事にしないといけません。しかし、それを人間の勝手な都合で手を加えるから、おいしい食べ物ができないのです。良いものをつくるには、とにかく土壌が良くないとダメです。人も同じですね。人でいえば土壌は、社会、職場、家、を指します。人々はあまりこういう考え方をしないと思いますが、とても重要なことです。そのためにも、より良い土壌をつくっていかなくてはなりません」

### 非健常者のがんばる姿が 感動を生み出す

ニッコーでは、非健常者へのビジネス支援を行っています。山崎会長の知人に非健常者の支援に熱心な方がおり、東林間駅前にパン屋を始め、それを通じて熱心に働く非健常者の話を聞き、ニッコーでも毎週金曜日の昼に訪問販売してもらおうようにしました。従業員も、丹精込めてつくられたおいしいパンを食べられることを非常に楽しみにしており、金曜日に限って、弁当をつくらず出勤し

## 21 Unique Companies in Sagamihara and Tama FILE 05 【株式会社ニッコー】



毎週金曜日の午前11時から午後1時までの2時間にわたり、にこやかな笑顔で自家製のパンを販売している。

てくる従業員も少なくありません。

また、ニッコーでは、社内においても積極的に非健常者の雇用に取り組んでいます。そして、決して特別扱いせずに健常者である従業員と同様に扱っており、育成に対してもごく普通に行っています。

ただし、そうした職場環境のなかで非健常者でも健常者よりもきっちりしゃべっている従業員もいます。彼らの一生懸命働く姿は周りの人間に感動を与え、「よし自分もがんばろう!」と労働意欲を高める

影響を与えているそうです。

「非健常者を積極的に雇用することでCSRを果たしているかもしれないが、逆に彼らから、人の生きることの喜びとは何か、を教えられているのだと思います」と山崎会長が語ってくれました。

### 今後CSRとして 求めることは

取材を通して、CSRを果たすことの大切さを教えてくれた山崎会

長に、今後のCSRについて伺いま

した。「社内だけでなく社会的にも必要とされる、言い換えれば、社会のために動ける人材を育てていくことが重要です。そうした人材を育てる社会貢献をしていくことが、今後CSRを果たしていくうえで、非常に大事だと思えます。そのためには、一人ひとりが社会にとって本当に良いことなのかをもう一度客観的に見られるようになることが重要です。そして、今の日本国内の現状を理解して今後どうあるべきかを考えていかなければなりません。結果として、社会のためにCSRを果たしていくことへとつながっていくのではないのでしょうか」



プロフィール 代表取締役会長 山崎貞雄  
1943年生まれ。公的研究機関や民間会社で勤務後、1984年に株式会社ニッコーを創業。